

留学先国名 : アメリカ

留学先学校名 : University of Washington, Seattle

留学期間 : 平成 27 年 9 月 30 日 ~ 平成 31 年 6 月 30 日

2015 年の秋からアメリカ・シアトルのワシントン大学に留学している私にとって、もうすぐ 2 年目の夏が終わろうとしています。2 年生として過ごしたこの一年間は、1 年目とはまた違った発見・経験をすることができ、実り多いものになりました。

この一年間、私にとって一番刺激的な経験となったのは秋学期に行ったイタリアへの短期留学でした。既にアメリカの大学へと長期留学(進学)している私にとって、他の国への留学というのは当初は全く考えていないことでした。しかし、留学費用は普段の学費よりも安いということもあり、ずっと気になっていたイタリアの食文化を学ぶ留学プログラムに参加することに決めました。プログラムの参加者は 20 人ほどで、イタリアのトリノとローマへ計 2 ヶ月のプログラムでした。

参加者した学生は、食文化や食の流通という共通の興味を持ちつつも様々なバックグラウンドを持つ人たちばかりで、普段ルームメイトやクラブ活動の友人と一緒にいることの多い私にとってあの多様性のあるグループで二ヶ月間を過ごせたことは、大きな宝物になりました。ワシントン大学のような大きな大学では普段の授業のクラスメートと親密になることは中々ないのですが、二ヶ月間、小さなグループで寝食をともにした友人達とは、今でも頻繁に交流しています。既にアメリカに留学しているからさらに他の国に行くことはない、という固定概念にとらわれずに本当に良かったと思いました。イタリアで学んだ農業や食文化にもさらに興味を持つようになりました。私は国際関係学部ですが、将来は国際関係学と農業の知識を両方活かせる「農業開発学」を学びたいと強く思うようになりました。そのため、今現在の夏学期が終わった後は夏休みに一時帰国せず、ワシントン州内の農家で農業体験をさせて頂くことになりました。

アメリカに来てから 2 年が経ち、本来ならば今がちょうど四年間の大学生活の折り返し地点ということになりますが、私は去年の冬あたりから 1 年早い卒業を視野に入れるようになりました。私が所属する国際関係学部は他の学部(特に理系)と比べると比較的単位がとりやすく、必要な勉強量を考えても、1 学期に取る授業数を増やせば三年間で卒業できると考えたからです。私は卒業後、大学院への進学を考えているのですが、一年間卒業を早めればその分を大学院に入る準備や社会経験に費やすことができます。自分の将来と現在の成績・生活を鑑みてこのような判断をしてそれを実行することができるのは、アメリカの大学ならではの自由と自主性を重んじる校風あつてのことだと思います。

一年間は、1 年生の頃の経験を糧にさら人脈を広めたり、学校の寮から出てアメリカ人の友人とアパートを借りたり、卒業後のことを視野に入れたり、もっと広い世界を見据えて過ごすことができたように思います。予定通りに進めば、この秋からの一年間(正確には 9 ヶ月間)がアメリカの学部で過ごす最後の年になります。来年はもっとクラブや課外活動でリーダーシップを発揮し、その上で学校の成績をさらに上げていくことが目標です。日本の大学ではできないであろうことを多く経験して、自分の世界をさらに広げることができるような一年間にしたいです。